

(議長)

追分商工観光課所管の予算並びに関連議案について一括補足説明を求めます。  
「追分商工観光課長」

「追分商工観光課長」(補足説明)

(議長)

説明が終わりましたので質疑を許します。質疑希望ありませんか。  
「萩原議員」

「萩原議員」

今年は追分大会50回大会という事で、先日もですね2月23日、道議会で追分を行ったという事で、大変好評だったと聞いておりますが、実際追分大会まであと半年となりましたが。今後どのような形で、全国に50回大会をPRしていくのか、お聞きしたいと思います。

(議長)

「追分商工観光課長」

「追分商工観光課長」

今現在ですね、先程申し上げましたが、全部が全部ですね、行事名・あるいは日程がまだ決まっている段階ではないんですけれども。今先程申し上げました様に、決まったものについては随時やっていっておりますけれども、これから例えばPR活動という事になりますと、こちらの方で出向いてってですね、やると。

例えばその主な事業とすると、昭和61年にですね、北前船廻航、こういう事業が大々的に取り上げられましてやりました。そういう時に、寄港地の方にですね、例えば追分をこちらの方から出向いて行ってPRするという様な活動なんかも考えてございます。

あと道内札幌の方でも色々なイベント、函館の方でもあります。そういったイベント会場の方にも行きましてですね、追分あるいは江差の観光のPR、これをですね大々的にPRして参りたいなという風に考えております。以上です。

(議長)

「萩原議員」

**「萩原議員」**

実は先日、道新だったと思うんですけども、道新の方にですね、北海道競馬ですか。道営競馬でPRの為にレース名に無料で出来るという様な新聞記事があったんですよ。要するに例えば、追分大会50回大会記念みたいな形で。北海道が主催しているんで、競馬というのがどうかなという部分もあるけど、北海道が主催しているんで。そうなると思います、道民ならず、場外馬券が各全国にあるという事で。そういう部分でPR出来るという様な形で新聞等に載っておりますんですけども、そのような活用とかはどの様な形で考えますかね。

**(議長)**

「追分商工観光課長」

**「追分商工観光課長」**

今議員おっしゃりました内容につきましてはですね、ちょっと把握しておりませんでしたですけども。

もしそういった部分の中で活用が出来る事があればですね、色々な情報を得て頂きますね、こちらの方から発信をして参りたいなという風に思っております。

それから議員も御承知かと思っておりますけれども、既に町広報の方にですね、ヤンサノエという事で、追分の情報という事で掲載をしております、その機運を高めるという事でそんな事なんかもしておりますので、ご理解を頂きたいという風に思います。

**(議長)**

いいですね。

**「萩原議員」**

はい。

**(議長)**

「小野寺議員」

**「小野寺議員」**

今ありました追分記念大会についてまずお聞きしますが。

もし私が失念していれば、若しくは見逃していれば、若しくは資料を貰っていたのに忘れていけばごめんなさいと言うしかないのですが、今課長説明あつ

た様な色々なこれからの部分。決まった事も含めて何かきちっとしたものって我々貰っていたのでしょうか。

それでね、それこそこの時期に何も無いって言うのはビックリしているんですよ。当然出てくると思っていたんですよ。まずそれあるのなら出してほしいんですよ、議長。もうビックリですよ。後半年ですよ。あるものあればまず出してもらって。こんなもの資料要求無くたって当然出ると思うんです。先ずそれが1つ。議長にちょっと要請したいのと。

ついでに、ごめんなさい、あわせて。去年からこの事については、議会も何だかこんだかって入っているんですよ、あれ何でしたっけ。この枠組み。議会も一応入っている事になっているんだけど、我々、議長ごめんなさい。何も知らされてないんですよ。町民一丸となってやりますという部分のその、私は町民の一人だと思っているんだけど。せつかくそのある枠組み、いやそれは去年色々あった様な事も含めてかもしれませんが。そこら辺どういう様な仕掛けというか、町民一丸となってというのが、恐縮ですが熱意が伝わらないのです。課長。それがまず一つ。

町営レストラン。先程課長から説明ありました、資料にもありました。それで公募でなくて、否公募でいいんですね。こっち丸が付いているから。否公募ですよ。

それでこの間論議ありましたので、そのよっぽど特殊、よっぽど高度な技術等であれば、否公募という事はあるでしょうけど、何で否公募なのかと。未だ私わからない。その点について教えて頂きたい。

最後、町長にお聞きします。

総務の部分で、町長に町民懇談会の部分で発言、これは私の聞き違いだったのかもしれませんが。町長はパフォーマンスと言ったと。

それで一応その趣旨は、その会場での趣旨は、たぶんその会場でやり取りは色々地域の方々が一年間通して節々でやっている、商工関係と言うんでしょうか。所謂イベント的なもの。その事についてやり取りあった中に町長は先程のそういうパフォーマンスについては、嫌いだと言ったんでしょうか。いずれにしてもそういう事なのですが、これは大変な事だと思うんですよ。イベントだという事を違ったとしても、イベントが嫌いだという事は別にしても。そういうパフォーマンスが嫌いだ？え？江差町の皆さんが一生懸命頑張っていることについて、それを町長はパフォーマンスと見ているのか。これもう一回ここで。追分商工観光課の方で改めて町長にお聞きしたいと思います。以上です。

(議長)

「追分商工観光課長」

### 「追分商工観光課長」

まず最初のスケジュール等のそれが提出されていないという事がございますけれども、これにつきましては、議員おっしゃる様にこれだという様なものではやっているものは特にございませぬ。

それはですね、今先程申し上げました様に多分部会の方でやっている所でございます、最終がですね最終版という事で、まだ出来あがらないという事もあります。

それで今の日程からいきますとですね、ちよくちよく来ている事業なんかもございますので、是非そういう色々な部分の中の事業を出してくれないかという様な事もございますので、そういった部分もありましてですね、ちょっと決め切れていないという部分もございます。

それで今後のスケジュールから行きますと、3月位を目途にしてですね、各部会何かを全部開催して閉めさせていただきまして。7月の上旬位までにはですね、実行委員会を開催して、その大まかな日程というか行事名、それらをですね、決定をしていきたいなという風に思っておりますので、御理解をお願いしたいなという風に思います。

それからレストランの方の関係でございますけれども、否公募の理由は何だという事なんでございますけれども。

これはですね、江差町の方に公の施設に係る指定管理者の指定手続きに関する条例というものがございます。これは公募ということもあるんですけども、公募しない場合という事ですね、町長とは施設の性格、あるいは規模、機能等を考慮し、設置目的、効果的かつ効率的に達する為、地域の活力を積極的に活用して管理を行う事により、事業効果等が相当程度期待できるという時については、公募によらなくても良いですよという規定がございます。

そういった中で、先程の資料の中にもあります様に、特にこの会社の方につきましてはですね、そういう大きな問題等という事は特にございませぬので、そういう形の中でそういう選択をさせていただいたという経過でございます。宜しくお願い致します。

### (議長)

「町 長」

### 「町 長」

追分大会のイベントの内容については課長から答弁させてもらった通りです。3月中に私の方に答申を頂く事になっておりますので、4月の直近の臨時議

会になるか、議員協議会になるか、あると思うのですが、その段階ではお示し出来る様な形になり得ると思っております。

今決まっている内容は、8月23日にNHKが「それ行け民謡」を江差で収録すると。こういう事が決まっているだけで、各六部会で協議している内容については、まだ私も知る由もないと思っております。

それと、私も地域懇談会でイベントが嫌いだとかと言った話というのは、どなたから聞かれたか私わかりませんが。

私はパフォーマンスが嫌いだという思いで言ったはずなんです。それは何故かと言うと、色んな意味でテープカットの式典もやらなきゃならない、あの式典はやらなきゃならない、この式典はやらなきゃならない、とかっていいのではないかって。それは。

皆さんが一生懸命やっていて、私が顔を出させて貰えればそれで良いんであって、その上でのこのテープカットをやるとか、花火を打ち上げるとかという事についてはですね、特別そういう事はする必要がないという思いで、私が言った立場でありまして、今までの江差町のイベントに顔を出さない事は無いですよ。私は。

ですからそういう意味では、別にイベントが嫌いな訳でもないし、別に江差町のおかれる行事に参加しない訳ではないですよ。積極的に参加をしたいと思っております。

「小野寺議員」

はい。議長。

(議長)

「小野寺議員」

「小野寺議員」

今の町長の部分で言うと、私の言い方、それは違うと。今の町長の説明だという事で宜しいですね。

それで課長すみません。追分大会わかりました。今町長の方から説明あった部分で、只、やはり少なくともその途中経過も含めてですね、途中経過も含めて、実行委員会に江差町議会として、議長が入っているんですけど。ですね。

少なくとも途中経過も含めて、議長通してという事でもいいんですけども、我々としてもじゃあこういう事という事を、やっぱり積極的にもう少しという事でありましたので、それは是非やって貰いたいです。もし何かコメントあれば。

それから、江差町営レストラン。条例は知っています。それから資料18もあります。だからと言って、それはわかりますよ。だからと言って、それがなぜ、そういう事もあると読めますよ。だけれども、公募出来ないという理由にはならないと思うんです。それは政治判断で否公募にしたという事であれば分かります。公募しない理由という事にはならない。というよりは、積極的になぜ公募しないのか。さっき読んだ条文だとかですよ、ここらを読んで、だから公募は無理なんだという事にはならないと思うんですよ。この今の御時世に。まずその点。

(議長)

「町長」

「町長」

実はあの50回大会の周知の関係と、議員の議会との関連性の事を、今私の方から係の方に指示しているのはですね、4月の下旬頃に江差追分会の総会がある訳です。全国から集まっていたく。

その段階にですね、従来であれば追分大会の一カ月位前からポスターを貼る訳ですけども、配布する訳ですけども、今回はその4月の総会時に間に合わせるように、ポスターを。

それとそのポスターの中にですね、基本的には3月末で確定されるであろう色々なイベントの内容のものが、ポスターの中に記載される様な事を含めて、検討してほしいという事を指示してありますので、その上で、その上でと言っても決まってしまってから相談するのではなくて、言ってみるとこういう方向に今進んでいますと。こういうポスターを作りますという事の内容については、議会ともさっきも言ったように都度、4月の段階では協議、或いは公開できると思っております。

私もその内容についてはさっきも言いましたけれども、まだ分かりませんので。

ただまあスケジュール的には、4月の総会時にポスターを渡せる様な、全国に持って行ける様な、そういう背景を作りたいという風に思っておりますので、御理解頂ければと思います。

(議長)

「追分商工観光課長」

「追分商工観光課長」

先程の質問でございますけれども、先程の答弁した通りでございますけれども、そこに先程申し上げました様に、効果的かつ、効果的でかつ効率的、こういう部分が含まれてございます。

現在、うちの観光公社の方ではですね、今江差のグルメをですね、町内一丸となって各店舗がですね、一生懸命やっております。そういう中において、ニシンを題材としたグルメの開発に努めておりまして、そういった事の中でですね、今専務さんを中心としてですね、そういう新しい、新たな江差の食の開発という形の中で一生懸命やっていると。そういう芽を伸ばしてあげたいと、いう様な事もございましてですね、そういう形も含まれておりまして、選択させて頂いたという事でございますので、御理解の程一つ宜しくお願い致します。

(議長)

「小笠原淳夫議員」

「小笠原淳夫議員」

道の駅について、一つ質問します。

この事についてはですね、ずっと見て歩いて何か江差の道の駅が一番小さくて、もう古くなったし、他所を見れば立派だし大きいし、何かね、大江差町らしくないなと思って。

建て替える考えがあるのか無いのかなと。私にすれば建て替えて貰いたいと思うんだけど。もし建て替えるとすれば、あれ国の予算何かはどうなのか、それも併せて一つ。

(議長)

「町長」

「町長」

せっかく小笠原淳夫議員の質問ですから、私から答弁させていただきます。

というのは、あそこの道の駅建てたのは、私の商工観光課長時代なんですね。ご覧の通りですね、エリアが限定されている地域なのです。あそこは。

ですからおそらく道の駅のあのトイレに行く段階までのエリアというのは、一段高くなっていると思いますけれども。その部分と言うのはですね、町の町有地と、それから開発で押さえている道路用地とのこの区域がここですよ、という事の目印になっている訳です。ですからそれ以上道の駅を延ばすと、大きくしようという話になると、海の方に迫り出すか、あるいは国の方でOKしないと思いますが、駐車体の方を買収するか。どっちかしかない様な状態なんで

すね。江差側の方には伸ばせないんです。あそこには浄化槽が入っているもの  
ですから。

あその場合は手をつけられないという状況からするとですね、道の駅の大  
きい小さいは別としてもですね、特徴がないという事は小笠原議員と同じ認識  
を持っている訳です。今担当課の方にですね、それらの事も含めて、特徴のあ  
る道の駅にすべきだという事については指摘しておりますので、是非あのもう  
少し寛容な目で見えてくれればと思っております。宜しくお願い致します。

### (議長)

いいですね。「横山議員」

### 「横山議員」

ではお尋ね致します。

町営レストランの指定管理者制度に対してについてです。今回もまた契約更  
新と言うんですかね、それで指定管理者の制度でやる事になったんですね。

私これはね、大変分かりにくい仕組みなのかなと思っております。というのは、  
町にとっていくらプラスマイナス設備関係も含めてですよ、いくらプラスにな  
っているのか、なってないのか。これは指定管理料を払ってない訳ですよ。ね。  
町としては、独自でやれるという事なんです。きっと。

そういう仕組みで、だから私はもう少しこれ指定管理者ではなくて、せつか  
く貸すなら、貸すというか所謂テナントとして、誘致した方が良かったかなと  
思うんです。これはなかなか営業的には、以前とは大分違いますからね。確か  
に営業的にはなかなか大変だと思いますけれども、まずそこ。なぜ指定管理者  
制度をそのまま使ったか。そして、それによって江差町としては、幾らの毎年  
収入があるのか。それは色々な売上等の連動したものがあのかないのかも含  
めまして、教えて下さい。

それと、収支資料で出して頂いた、収支内訳書を見ますと、レストラン売上  
で 25,500 千円。これは一時から見ると、ものすごく金額的に下がっている事だ  
と思えますが。その他に指定管理料 0 円、その他収入、18,000 千円、パーセン  
テージで言うと、レストラン売上が 58.62%、その他収入 41.37%、その他収入  
が売店だとすると、大変売店の売り上げ比率が多いなあ、こんな事ってあるの  
かなという。それはそれであるんですけど。それはそれで。併せて 43500 千の  
売り上げを見込んでおりますね。

それに対して原材料費、売上原価は 38.36%。この辺り大分下がってきたかな  
と思えますけど。それでもレストラン経営としては、大変難しい数字です。高  
い原材料の売上です。それで、その事がまずあれです。



まずその事をちょっと中身を、その他収入等も含めて、どうして指定管理者制度を継続したのか。そしてそれによって江差町は、どういうくらい収入があるのか。教えてください。

(議長)

「追分商工観光課長」

「追分商工観光課長」

なぜ指定管理者制度を導入したのかという事でございますけれども、指定管理者制度そのものというのはですね、行政でやるよりも、民間のその活力、そういうノウハウを取り入れながらやるという事で、そういうものが指定管理者制度の趣旨でございます。

そういう意味からいたしまして、前回と同様に引き続きまして、契約がありますけれども、引き続きこちらの方で公社の方と、指定管理者の協議協定を締結したいという考え方でございます。

それから、収入の内訳の方でございますけれども、43,500千円という事でございますけれども、これの内訳でございまして、売上高の方につきましては、約26,000千円という事でございます。

それからその他収入という事で、18,000千円程ある訳ですけれども。その内訳とすると、13,000千円の内、レストランの売店、レストラン内にあります売店、それと、江差追分会館の方にある売店。これの売店の収入という事でございます。その他収入の方につきましてはですね、5,000千円程が住宅事業という事になっております。

それと指定管理料の方につきましては、これは前回と同様に町の方といたしますと、お支払いをしてございません。

これは江差追分会館であるとか、文化会館の方の指定管理者の方と、形をちょっと異にするものでございますから、管理型の方と所謂経営型という形で、ちょっとスタイルは違うものですからそういう形の中で、指定管理料の方につきましては無料という様な形で考えてございます。

それから、町の方に幾らぐらい入ってくるのかという事でございますけれども。大体景気の良かった時の方につきましてはですね、売上額に応じてその率が決まっていたんでございますけれども、売上が御承知の通り、こう景気低迷であるとか、見込みが減という事もございまして、売上が減少してございます。

そういった部分の中で、ここ近年を見ますと、売上額が先程も言いましたが、25,000千円とか26,000千円という形の方になってございますので、大体1,000千円を切りましてですね。800千円とか900千円、これが町の方に入ってくる

利用料という形の中で、入ってきている金額でございます。以上でございます。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

どうも指定管理制度を継続する事がよく納得できる説得はありませんね。その事をさっき言った様に、テナントにしたら良かったんですよ。その方がはっきりします。

そして売上、その他収入がこれ売店収入ですね。追分会館の中の売店も含めて。売上が非常に高いあれだなと。

そしてそれも見ましてですね、様式4の収支計画書。これは全く不思議な収支計画書が出ております。総括表。平成24年度から5年間の契約ですから、28年度まで売り上げはいずれも43,500千円、支出も43,500千円、収支利益あるいは損益0円。こういう事で0円で、こういう事で経営を受ける所があるんでしょうか。そこをこういう収支計画書を受けてそこと契約した、それは一本しかないという事でやったんですからあれですけど。

(議長)

「副町長」

「副町長」

収支計画の中身についてのご質問ですが。収支計画については私共が町の立場でですね、それはあれこれ言うべきではない。つまり指定管理の導入の理由そのものがですね、そういう経営の内容、そのものについては、受託した指定管理者が自由な裁量で経営するという事ですから。その数字おかしいんでありませんかとか、こちらの方から言うべき筋合いのものではない。

それから収支0円というお話でしたが、実は私共この前株主という立場で会議に参加しましたが、23年度赤字だったんです。だからその赤字を、その言ってみれば収支0円にするのを当面の目標にするという意味で、私は非常に説得力があるなど。その数字がどうのこうのという事についてはわかりません。わかりませんが、少なくとも赤字の分をバランス取れるというか、収支とんとん位の経営に持っていきたいというのは、かなりの経営努力が必要だなと言う風に思っております。

それとなぜ指定管理を継続したかという問題ですが、指定管理はですね、5年前なんです。導入したのは。5年毎に指定管理を止めるとか、また継続する

とかしないとか、そういう朝令暮改的なそういう制度であるべきではない。

それからもう一つは、レストランもこの5年間、なぜ公募か否公募かというそういう内容の質問ではありませんでしたけれども、そのレストランの経営の安定性、継続性、そういう事を考えればですね、そう簡単に5年毎にコンペをさせて、指定管理者をそれぞれ都度変えるという様なそういう視点でやるべき筋合いの施設ではない。そういう風に判断してございます。

(議長)

「大門議員」

「大門議員」

町長の執行方針の中に、追分大会を機に江差の町が変わったと言われる様な町づくりという事を、方針の中で言われています。

そしてそうしますと、観光費の中なのですが、旅費という部分ですと164千円という事なんです、これは追分大会の方で全部この宣伝、歩く宣伝ですね。これ外に出てって宣伝するのも、全部追分の方で一本化で江差の観光、これ便乗して江差の観光、既存の観光も一緒にしていくものですよね。それとこれ追分大会だけという事で行くんですか。ですからこの観光のほうでは、この費用というのは見てないという事なんですか。その辺のところちょっとお伺いします。

(議長)

「追分商工観光課長」

「追分商工観光課長」

今の質問でございますけれども、うちの課はですね追分商工観光課ということでございまして、観光もですね、追分もですね、今年は特にそうですね、追分の事業において、その町の観光をPRしてくる。観光で行って追分をPRしてくる、という一体性を持った中でですね、取り進めて参りたいという風に思っておりますので、その辺の旅費等の方につきましてはですね、先程申し上げました実行委員会、追分会の大会の方にもですね、予算を組んでおりますので、そういう方向の中で一体となって取り組んで参りたいなという風に思っております。宜しくお願いします。

(議長)

いいですね。

「大門議員」

はい。

(議長)

「室井議員」

「室井議員」

課長あの、レストランの話、何十年経ちましたか。何十年。三十年じゃないですか。当時の参加をして支出した、町は1,000千円ですよ、出資金ね。

株式も幾らですか。総額出資金というのは。知っていますね。皆民間人がね、食べ物食べらせて、観光の拠点にしたいと、そういう思いでずっと来たんでしょ。町でお金借りて、建てた分もとつくに返済してしまっていますよね。本来そして振興公社も、自分でお金出して、あの中に設備投資していますよね。違いますか。していますよ。三十年経ってですよ、指定管理者が公募でもなんでもいいんですよ。やるならやってもいいんですよ。

でもね、当時のやはり出資してなんとか頑張りたいという思いでね、ずっと私は聞いていますよ。売上が減って赤字大変だと言う事を。それをね、もっと課長さんね、自信もってね、経営者の方と話して、来年以降どうするかとやってもいいんでないですか。やっぱり変に何かあれだな、という風に思ってるのは経営者としてはね、出来ない事なんです。課長そういう認識ちゃんとしてね、心構えで今年一年賭けて対応しても良いんでないですか。決して本人もですね、言っていますから。出資してくれる皆さん方のお金が無くなる様な事はしたくないと、はっきり申しているんですよ。町に100万200万返してもいいと位言っていますから。

だからその辺はね、課長何もあの膝を交えてね、ざっくばらんにとどうするという話はやって下さい。今年から来年かけて。それで良い方法が見つければ良い方で考えれば良いんじゃないでしょうか。課長いいですね。

(議長)

「町長」

「町長」

江差追分会館のあの今の食堂部門の建設をすぐ担当したのが私です。

ですから、今室井議員おっしゃるような経過についてはそれなりに理解しているつもりであります。

当時の本田町長は、やっぱり地域の中で活力ある産業形態の下での手を上げた施設を整備した背景がありますから。それらの事を踏まえつつ、整備されたと思っております。

それに対して手を上げてあそこで営業したいと言ってくれた人達との思いもやっぱりこれまでの歴史がある訳です。それらの事を踏まえつつ、これからも先程副町長の方から答弁させてもらった様に、本当に3年や5年毎に業者が変わって良いのかという問題もある訳でありますから。それらの事を踏まえつつ、経営の内容は別にしましてもですね、それらの事については蓋ない意見交換をさせてもらえればという風に思っておりますし、経営移譲の事について私達もフォローしていきたいと思っております。

**(議長)**

他に質疑希望ありませんので、追分商工観光課所管及び関連議案についての質疑を終わります。